



学びのページ



「社会の御恩」

今回は「社会の御恩」について考えてみましょう。

そもそも「社会」ってどんなものだと思いますか？ 辞書には「人間が集まって生活を営む、その集団」とあります。世の中には様々な社会があり、身近な所では学校や職場、ご近所付き合い、家庭も小さな社会です。人間は一人では生きていけません。人と人が関わり合いながら生活するのが社会であり、私たちは日々その恩恵を受けています。

例えば、あなたが着ている服ができるまでにどんな人が関わっているか、想像してみてください。糸を紡ぐ人、布を織る人、デザインをする人、縫製する人がいて、服は完成します。さらに出来上がった商品を輸送業者が運び、お店で売ってくれるから、自分好みの服を手に入れることができます。その服を買ったために必要なお金

があるのも、動かしていただける仕事があるからで、そこにも大勢の人々のお陰さまがあります。

洋服に限らず、一杯のみそ汁も一軒の家も、便利な交通機関や電気・ガス・水道などのインフラも、あらゆるものの奥には自分以外の誰かの「働き」が隠れています。私たちの当たり前の毎日は、幾重にも重なった社会の御恩の上に存在するのです。

また、お金を稼ぐ仕事ばかりが社会を支えているわけではありません。例えば、お店の営業が成り立つのは、品物を買った客がいるから。常に誰かの働きに生かされる、自分も誰かを生かしている「共存共栄」で社会は成り立っています。ですから、自分も社会の一翼を担っている責任感を持って、与えられた役目を精いっぱい果たしていくことが大切です。

社会の御恩を意識して生活す

ると、日常のいろんな場面で物事の受け取り方が変わります。

朝の通勤通学の時に電車が遅れて、「急いでいるのに！」とイライラしたことはありませんか。そんな時、こうしている間にも早く復旧できるように作業をしてくれている人の存在を思い浮かべたら、社会の御恩の有り難さに気づける機会になります。

よく「社会が悪い」と不平不満を口にする人もいます。でも身の回りを見てみてください。自分でも気付かないうちに社会からたくさんのお恩を受けています。また自分も社会の一員として、より良い社会にしていくなために自分ができることを考え、行動することが社会の御恩に報じていく生き方です。

◎身の回りにどんな「社会の御恩」があるか、みんなで話し合ってみよう。